|  |
| --- |
| 脳原性運動機能障害用 |
| （該当するものを○で囲むこと）１　上肢機能障害ア　両上肢機能障害<結びテスト結果>１度目の１分間　　　　　　本２度目の１分間　　　　　　本３度目の１分間　　　　　　本４度目の１分間　　　　　　本５度目の１分間　　　　　　本計　　　　　　　　　本　　イ　一上肢機能障害<５動作の能力テスト結果>ａ　封筒をで切る時に固定する。　　（・可能　・不可能）ｂ　財布から硬貨を出す。　　　　　　（・可能　・不可能）ｃ　傘をさす。　　　　　　　　　　　（・可能　・不可能）ｄ　健側のを切る。　　　　　　　　（・可能　・不可能）ｅ　健側のそで口のボタンを留める。　（・可能　・不可能）　２　移動機能障害<下肢・体幹機能評価結果>　　ａ　つたい歩きをする。　　　　　　　 （・可能　・不可能）　　ｂ　支持なしで立位を保持し、その後 　　　１０ｍ歩行する。　　　　　　　　　 （・可能　・不可能）ｃ　から立ち上り、１０ｍ歩行し　 （・可能　・不可能）　再びに座る　。　　　　　　　　 　　　　　　　　秒ｄ　５０ｃｍ幅の範囲内を直線歩行する。（・可能　・不可能）ｅ　足を開き、しゃがみこんで再び立ち上がる（・可能　・不可能）注　この様式は、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害に用いる。 |

|  |
| --- |
| 3345備考　上肢機能テストの具体的方法　ア　結びテスト　　事務用とじ（概ね４３ｃｍ規格のもの）を使用する。①　とじを机の上、被験者前方に図のように置き並べる。②　被験者は手前のから順にの両端をつまんで、軽くひと結びする。注　○　上肢を体や机に押し付けて固定してはいけない。　　○　手を机上に浮かして結ぶこと。③　結び目の位置は問わない。④　が落ちたり、位置から外れたときには検査担当者が戻す。⑤　は検査担当者が随時補充する。⑥　連続して５分間行つても、休み時間を置いて５回行つてもよい。イ　５動作の能力テストａ　封筒をで切る時に固定する　　患手で封筒をテーブルの上に固定し、健手で鋏を用い封筒を切る。　患手を健手で持って封筒の上にのせてもよい。封筒の切る部分をテーブルの端から出してもよい。はどのようなものを用いてもよい。ｂ　財布から硬貨を出す　　財布を患手で持ち、空中に支え（テーブル面上ではなく）、健手で硬貨を出す。ジッパーを開けて閉めることを含む。ｃ　傘をさす　　開いている傘を空中で支え、１０秒間以上まつすぐ支えている。立位ではなく座位のままでよい。肩に担いではいけない。ｄ　健側のを切る　　大きめの切り（約１０ｃｍ）で特別の細工のないものを患手で持つて行う。ｅ　健側のそで口のボタンを留める　のりの効いていないワイシャツを健肢にそでだけ通し、患手でそで口のボタンをかける。女性の被験者の場合も男性用のワイシャツを用いる。 |
|  |